

國學院大学・高校生新聞社 主催

第13回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストで同時多数入賞!

平成29年12月27日 朝日新聞 朝刊 尾張版

※朝日新聞承諾番号 17-6958 朝日新聞に無断で転載を禁ず

杏和高4作が受賞

地域の伝承文化コン

高校生が民俗学に関する研究成果を発表する今年度の「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」(国学院大学など主催)で、杏和高校(稲沢市)の生徒が応募した4作品すべてが、最優秀賞を含む入賞を果たした。同校は3年連続の入賞で、



コンテストで受賞した(左から)養島さん、坂東さん、飯田さん、澤井さん。稲沢市祖父江町二俣の杏和高校

生徒らは「時間をかけて調べた結果、認められてうれしい」と喜んでいる。

コンテストは5部門あり、全国から709の団体・個人が応募。同校からは、「地域民話研究部門」の個人で、坂東壮一郎さん(2年)が最優秀賞を、養島千東さん(同)が佳作に選ばれた。「地域文化研究部門」では、個人で飯田真世さん(同)が、団体で郷土研究チームがいずれも優秀賞を獲得。同部門は最優秀賞の該当者がいなかったため、優秀賞が実質的な最高賞にあたる。

最優秀賞を獲得した坂東さんのテーマは「川との死闘」と三人柱観音像にこめられた思い。一宮市の伝承で、江戸時代初期の木曾川の治水工事の際、与

三兵衛という人物が工事を完成させるために川に身を投げて人柱になったという民話を取り上げた。この民話と濃尾大橋の工事中に事故死した作業員を弔うために60年前に同市起に建立されたのが「人柱観音」。坂東さんは文献や資料にあたり、地元の関係者に話を聞くなどし、昔の地域の人が洪水に悩まされていた歴史や思いに光を当てた。「研究は楽しく、濃密な時間だった。それだけで十分なのに、賞まで取れて満足です」と話す。

優秀賞の飯田さんは、漬物をまつる養津神社(あま市)の「香の物祭」の由来や歴史を調べ、佳作の養島さんは弥富市にある「おみよしの松」を取り上げた。澤井翔太さん(2年)は郷土研究グループ19人は、今年も地元の稲沢市祖父江地区に伝わる豊作を願う伝統行事「虫送り」の研究を続けた。

担当の小野田覚教諭(52)は「どの作品も、夏休みを丸々使うなど時間をかけて、自分の足を使って丁寧に調べている。その点が評価されたのでは」と話している。

(中野龍三)